



きりえ「ハマニンニクの穂が出る頃に」：くすだ ひろこ

希望に向かって！

新年 おめでとうございます！！

2023年 1月

まだまだ新型コロナウイルス感染症が収まりませんが、昨秋には4年ぶりに「和白干潟まつり」が開催できました。第34回になります。飲食物を出さないなど感染対策をとっての開催でしたが、暖かい日差しの中で楽しく和白干潟を満喫しました。昨夏の猛暑のためにアオサの発生が少なく、干潟の痛みが少なく、きれいな干潟が広がっています。生きものたちも元気で、アサリが増えてきました。水鳥たちも今冬はハマシギやシロチドリなどの小型シギたちが多いようで、嬉しいです。

和白干潟を守る会の環境保全活動は35年目を迎えます。会員の皆さまのおかげで長く続けてくることができました。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、自然観察会や和白干潟まつり、クリーン作戦、鳥類調査、水質・砂質調査、和白干潟通信やパンフレットの発行、ホームページでの広報などの多くの活動をしてきました。コロナのために1年延期された第14回ラムサール条約締約国会議が、昨年11月にありました。延期前の実施予定の時に国内では1か所の湿地（出水ツルの越冬地）が登録されましたが、残念ながら和白干潟は登録されませんでした。今後もラムサール条約に登録されるように活動を続けていきましょう！「山・川・海の流域会議」では、立花山・唐原川・和白干潟の保全6グループと個人が連携して、立花山から和白干潟の集水域保全活動を続けています。ミヤコドリは今冬は23羽が和白干潟に来ており、クロツラヘラサギも18羽を確認しています。ツクシガモは今冬は飛来が遅く12/20に118羽を確認しました。

2023年を迎え、世界の湿地や干潟の保全が進むことを心から願っています。35年目の今年も、和白干潟を守る活動に皆さまのご協力をお願いします。多くの方に和白干潟の環境保全活動に参加していただき、和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となることを願っています！今年もどうぞよろしくお願いいたします！

和白干潟を守る会 代表 山本 廣子



第34回和白干潟まつり開催（11月20日）



お天気に恵まれ、4年ぶりの和白干潟まつりは大成功でした。約400名の参加者があり、観察会には子供たちが多く参加していました。干潟の鳥たちも多くて嬉しかったです。お魚やヒトデなどの美しい水槽展示や自然遊びコーナーや「ひもくじ」もにぎわっていました。コロナ禍なので食べ物の出店をしませんでした。手作り小物などが人気でした。ステージは今回、和白干潟や海をテーマにしたものにかぎらせていただき、コーラスや紙芝居、エプロンシアター、ギターの弾き語り、マジックなどもあり、暖かい干潟の前で一日ゆっくりと過ごすことができました。4年ぶりの懐かしい方々に会えました。反省会や後片付けなど、最後まで力を合わせて頑張ることができました。前日の会場整備では、(株)環衛サービスの皆さんにご協力いただきました。ありがとうございました。(実行委員長：山本 廣子)



●開会式

4年ぶりの開催を喜び、第34回和白干潟まつり開会とラムサール宣言をしました。



●バードウォッチング

望遠鏡でカモなどを観察、お子さんから高齢の方まで60名参加で、53種確認しました。



●自然あそび

堀講師指導で自然界での「保護色」や「擬態」を人工物探しゲームで体感しました。16名参加。



●植物観察

海の広場からアシ原の中を歩き、木の実や紅葉など干潟の秋に出会いました。14名参加。



●干潟の生きものの観察

藤井講師指導で砂浜を掘りカニや貝やゴカイ等、干潟の生きものを見つけました。31名参加。



●お魚水槽展示

マリンスーパのヒトデやお魚が水槽で展示され、目の前で海の生きものを楽しめました。



●ギター弾き語り

堀さんが「思い出の渚」「能古の恋歌」など懐かしい曲をギターで弾き歌いました。



●エプロンシアター

エプロンの和白干潟に手作りの干潟の生きものたちが、潮の満ち干に合わせて現れました。



●紙芝居

「ひがただいすき」「和白干潟の秋」の紙芝居と、「和白干潟の秋」誕生秘話も披露しました。



●九州青年合唱団

「ミヤコドリ」「和白の春」など6曲を感情豊かに披露、素晴らしいハーモニーでした。



●マジックショー

マジシャン・ひろさんが、干潟の生きものたちやお話の楽しいマジックをしました。



●一言アピール

9団体がそれぞれの活動内容や今回のバザーについて、大きな声でアピールしました。



●心を合わせて

和白干潟に向かって「ぼくらはみんな生きている」「海」のお遊戯をしました。



●干潟の掃除

23名の参加で、海の広場前海藻などをソリで16杯分回収しました。



●写真展・パネル展

和白干潟の自然アルバムや、守る会と山・川・海の流域会議の活動の写真を展示しました。



●模擬店・バザー

15店出店、食べ物は出店できませんでした、どの店も賑わっていました。



●ブース

ワークショップなど参加できるブースの様子です。

第34回 和白干潟まつりラムサール宣言 (抜粋)

1. 私たちは、これからも大切な和白干潟の保全活動と環境保全の啓発活動を続けて行きます。
2. 福岡市に、「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」の前提となる国の特別鳥獣保護区申請の方針を定め、具体化に向けて早急に取り組むことを求めます。同時に、市民に向けて、和白干潟が福岡市の貴重な自然であり、保全の大切さを理解できる取り組みを進めることを求めます。
3. 福岡県に、「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」の前提となる国の特別鳥獣保護区申請を福岡市へ働きかけることを求めます。
4. 環境省に、「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」の前提となる特別鳥獣保護区設定申請を福岡市へ促すことを求めます。

2022年11月20日 第34回和白干潟まつり参加者一同

福岡市長からのメッセージ

第34回和白干潟まつりの開催をお喜び申し上げます。今年は、4年ぶりの開催ということで、コロナ禍でもあり、企画・準備にあたり、ご苦労も多かったことと存じます。また、実行委員会の皆様をはじめ、参加の皆様におかれましては、長年にわたり、干潟の清掃や自然観察会など、和白干潟の保全活動に取り組んでおられますことに、心より敬意を表します。福岡市では、第二次博多湾環境保全計画に基づき、「生きものが生まれ育つ博多湾」の実現に向け、市民、NPO等市民団体、事業者、大学等研究機関など、各主体との共働による博多湾の環境保全施策を進めているところです。今まで以上に、博多湾の環境保全の取り組みが広がり、和白干潟の自然が次の世代に引き継がれていくことを祈念いたしております。

令和4年11月20日 福岡市長 高島 宗一郎

冬の植物

アシ原や樹林帯の植物は葉が赤や黄色に色づき、花が綿毛になっています。冬枯れの植物も多く、夏には藪だったアシ原に道ができます。落葉樹は葉を落としたあとに、可愛い葉痕が見られます。



ウラギクの綿毛



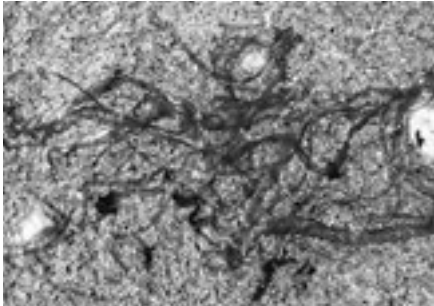
ノイバラの実



センダンの実と葉痕

冬の干潟

今冬の和白干潟ではアオサが少なく、ボウアオノリが多めに繁殖しています。潮が引いた干潟には砂紋や鳥の足跡が残されています。冬は北西の季節風が吹きつけて、干潟上には砂紋がたくさんできます。



ボウアオノリ



鳥の足跡



砂紋

冬の鳥たち

越冬する水鳥が多い季節です。カモ類、シギ・チドリ類、カイツブリ類などがたくさん越冬しています。アシ原や樹林帯にもツグミやシロハラ、オオジュリンなどの冬鳥の小鳥たちが訪れています。



ダイシャクシギ



ミヤコドリ



ハマシギ



ツグミ



ツクシガモ



クロツラヘラサギ

福岡市長選に公開質問状を出しました

11月に行われた福岡市長選挙の立候補予定者に10月29日「和臼干潟のラムサール条約登録」に関する質問状を出し、回答をホームページに掲載しました。新人候補、現職候補ともに積極的に推進を掲げる姿勢は感じられませんでした。結果は「将来的な課題」と前回の回答を繰り返す現職市長が当選し、従来通りの「ラムサール条約登録」の先送りが懸念されます。

和臼干潟を守る会公開アンケート	
1. 和臼干潟をご存知ですか？	(知っている ・ 知らない)
2. 和臼干潟に来られたことがありますか？	(ある ・ ない)
3. 和臼干潟の重要性はご存知ですか？	(知っている ・ 知らない)
4. ラムサール条約についてご存知ですか？	(知っている ・ 知らない)
5. 和臼干潟をラムサール条約登録地に申請することについて、どのようにお考えですか？ (文章)	
6. 市としてどのような取り組みが必要とお考えですか？ (文章)	

2022年日本の新たなラムサール登録地は1か所のみ

1年延期され、昨年11月5日から13日まで武漢(中国)とジュネーブ(スイス)で開かれた第14回ラムサール条約締約国会議(COP14)で、新潟市と鹿児島県出水市の「ラムサール条約湿地自治体認証制度」に基づく認証式がありました。実施予定だった一昨年にラムサール条約に登録された鹿児島県「出水ツルの越冬地」の登録で、日本のラムサール条約登録湿地は53か所になりました。次回のCOP15は、2年後の2025年にアフリカのジンバブエで開催予定です。和臼干潟の登録が待たれます。

九州産業大学で特別講義「和臼干潟の自然や地球の自然を守りましょう！」



11月12日、今年も山本代表の講義が九州産業大学でありました。参加はリモート参加など、学生や一般含め61名でした。まず和臼干潟の生き物の手袋を使った自己紹介では、自然豊かな子供のころの和臼干潟の話をしました。そして「和臼干潟を守る会」を作った経緯や、その後34年間の活動の数々が写真やビデオで紹介されました。和臼干潟が「ラムサール条約」登録の候補地であることを話し、「自然を守ることは命を守ること、和臼干潟をとおりて地球の自然を守りましょう。干潟は海の命を育む海の子宮とよばれています。皆さん一緒に干潟を守ってください」と呼びかけました。(今林)

バードウォッチング in 和臼干潟2022 (主催:和臼干潟保全のつどい)

12月3日、冬の寒さも和らぎ、穏やかな晴天の中、総勢34名の参加者が有り、23種の鳥が観察されました。干潟には、マガモ、オナガガモ、ツクシガモ等のカモ達やミヤコドリのほか、シロチドリ、ハマシギ、ミユビシギ等のシギ、チドリなどもありました。沖合にはスズガモ、ホオジロガモ等がいて、カンムリカイツブリは74羽もカウントされました。「初めての参加で、たくさんの鳥たちが見られて良かった」「シロチドリがかわいかった」などの感想がありました。コロナ禍でのバードウォッチングで、参加者はあまり多くはありませんでしたが、晴天に恵まれ色々な鳥たちを見られて、参加された方々も楽しく過ごされたようでした。(山之内)



和臼干潟を守る会へのご支援ありがとうございます！

12/20 香住ヶ丘5丁目2区6組の皆様よりご寄付をいただきました。

●気が付いたらあなたも電話してください！

▼海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分たちでゴミを拾った時

092-282-7146 (港湾空港局・維持課)

▼沖のアオサをとってほしい時

092-282-7154 (港湾空港局・みなと環境政策課)



＊ ＊ お 願 い ！ ！ ＊ ＊

●干潟でのゴルフやラジコンやドローンは危険です。やめましょう！

●干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう！
(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)

●犬のフンの始末は飼い主がしましょう！

●弱った野鳥を見つけた時 → 092-513-5611 福岡県筑紫保健福祉環境事務所(地域環境課)

092-643-3367 福岡県環境部自然環境課野生生物係



●2022年9月

- 9/3 (土) 干潟通信143号 編集会議
- 9/4 (日) 2022年度 秋期シギ・チドリ調査 2回目(今津)
- 9/8 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 9/10 (土) 山・川・海の流域会議参加
- 9/11 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 9/13 (火) 2022年度 秋期シギ・チドリ調査 2回目
(博多湾東部)
- 9/20 (火) 2022年度秋期シギ・チドリ調査 3回目(今津)
第34回 和白干潟まつりうちあわせ会
干潟通信143号 編集会議
- 9/24 (土) 定例会議・国際ビーチクリーンアップ参加の
和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 9/25 (日) アオサのお掃除大作戦(和白干潟保全のつどい)
- 9/26 (月) 2022年度 秋期シギ・チドリ調査 3回目
(博多湾東部)
- 9/27 (火) 第34回 和白干潟まつりうちあわせ会

和白干潟の2022年5大ニュース

1. 4年ぶりに和白干潟まつりが開催できた
2. 夏の高温のためアオサがとても少なかった
3. クリーン作戦にいろんな人が参加するようになった
4. シギ・チドリやカンムリカイツブリの飛来が多かった
5. 新しい会員が増えた

(2022年12月17日の定例会議にて)

●2022年10月

- 10/1 (土) 第10回「唐原川お掃除し隊」参加(山・川・海の流域会議)
- 10/8 (土) アオサのお掃除大作戦(和白干潟保全のつどい)
- 10/9 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 10/11 (火) 干潟通信143号 発送会
- 10/13 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 10/22 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 10/23 (日) ダンロップグループの和白干潟自然観察会とクリーン作戦
- 10/25 (火) 第34回 和白干潟まつり実行委員会

●2022年11月

- 11/4 (金) 柏陵高校環境科学コース1年生の和白干潟自然観察会
- 11/5 (土) アオサのお掃除大作戦(和白干潟保全のつどい)
- 11/10 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 11/12 (土) 山・川・海の流域会議参加
九産大特別講義「和白干潟の自然や地球の自然を守りましょう！」(講師:山本)
- 11/13 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 11/19 (土) 干潟まつり会場整備
- 11/20 (日) 「第34回 和白干潟まつり」開催
- 11/26 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 11/28 (月) 和白小学校4年生の和白干潟自然観察会



干潟のつぶやき「アオサがなくて良かったね！」

アオサは成長が早く、海水中の炭素や窒素、リン、栄養塩などを効率よく吸収するため、海水の浄化に役立つ反面、大量に発生すると干潟に堆積して底生動物を死なせたり、浜辺に漂着して腐敗し悪臭を放ちます。このアオサは、水温10度~25度が最も増殖しやすく35度では増殖が止まるとのことです。

例年では、アオサは8月末から発生して12月くらいまで増殖が続きますが、今年の和白干潟では夏場が余りにも暑かったせいか、9月になっても10月になっても断片的にボウアオノリに混ざって浜辺に漂着するものの、アオサの大量発生はありませんでした。そのせいか、干潟にアオサが堆積することもないので、干潟のアサリが増えました。今年の和白干潟は、アオサがなくて良かったですね。干潟の生きものたちも大喜びです。



浜辺に打ち寄せた
ボウアオノリとアオサとオゴノリ



和白干潟の観察会報告

(山之内 芳晴)

10/23 「ダンロップ九州」と「日本ユネスコ協会連盟」32名の観察会とクリーン作戦

関係者の挨拶の後、山本代表が和白干潟の大切さや活動の歴史を話し、バードウォッチングでは、棒杭上のミサゴやカモの群れなどを観察しました。干潟の生きもの観察では、ウミナナやヤドカリ、コメツキガニを観察。沖合ではアサリ掘り。アサリはたくさん育っていました。干潟の掃除では沖合の埋まっていた大きなタイヤやチャイルドシートなども掘り出して回収してくれました。(今林)



11/4 県立柏陵高校環境科学コース1年生と先生42名の観察会

快晴でさわやかな日でした。ガイド紹介のあと、干潟の話をし、バードウォッチングではクロツラヘラサギ、オナガガモ、ミサゴやシロチドリなどたくさんの鳥たちを見ることができました。生きもの観察では、コメツキガニやゴカイの巣穴を掘り出したりしながら沖合へ。アサリはたくさんいて大きいものもありました。海の広場にもどり、ふりかえりで生徒からは「黒い砂があるのはなぜか」「鳥がゴミを食べることはあるのか」などの質問がありました。(今林)



11/28 和白小学校4年生と先生105名の秋の観察会

海の広場での干潟の話の後はバードウォッチングです。ダイシャクシギやツクシガモ、ミサゴもいました。海の広場では、林の中のアキニレやナンキンハゼの紅葉が、浜辺ではウラギクの綿毛やハママツナ、ハマボウの鮮やかな紅葉も見られました。アシ原の入り口でセンダンの木の葉痕をルーペで観察。アシ原の砂洲ではカモたちとダイシャクシギを見ました。海の広場で観察した鳥の写真と採取してきた植物を見ながらおさらいをしました。(今林)



和白干潟と私

8 (保全活動) 山本 廣子

1987年に和白干潟保全の請願書を福岡市議会に提出した翌年、1988年に私は「和白干潟を守る会」を作り、保全活動を始めました。請願書の署名を集めてくれた人たちに呼び掛けて100名程で守る会の活動が始まりました。和白ではまだまだ埋め立て推進派の方々があられて、当初私は無言電話や嫌がらせ、家の前のJR土手の火事まで起こりました。つらいこともありましたが、自然を守る活動は間違っていないと確信していましたので、耐えることができました。「香住ヶ丘埋め立てを考える会」や「奈多団地の環境を考える会」「博多湾の自然を守る会」「住民運動連絡センター・福岡」「グリーンコープふくおか東部生協」など多くの方々の協力を受けながら、また「アースデイ」や「ラブアース・クリーンアップ」などの呼びかけにも応えながら、連携を広げました。

私がはじめにしたことは「和白干潟」の命名です。保全活動をはじめるにあたって守るべきものを明確にしたいと思い、和白(地名)と干潟をつないで「和白干潟」と名付けました。「和白干潟」のリーフレットを作り、全国に広めました。活動を続けられたキーワードは明確さと定例化だろうと思います。和白干潟を守る活動は、仲間とともにクリーン作戦や水質調査、自然観察会、和白干潟まつりなどを企画して、定例化していきました。現在も定例会議で皆と話し合いながら決めていくという活動スタイルを続けています。毎年1回の総会で活動を振り返り、活動方針を立て、係を決めています。必要な時には各係で会議を行っています。このような民主的な会であったことが、会が長く続いたことに繋がったのだと思います。



和白干潟のリーフレット

新年度の会費納入をお願いします!

今年も和白干潟を守る会の一員として、和白干潟の自然を守る活動のためにお願いします。

年会費 個人2,000円、団体5,000円

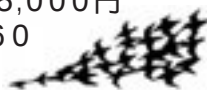
郵便振替 01720-4-23860

和白干潟を守る会

同封の振替用紙をご利用下さい。

郵便局の受領書を領収書に替えさせていただきます。

行き違いの際はご容赦下さい。



和白干潟を守る会2023年度総会を開催します！

■日時: 2月25日(土) 12時～14時 ■場所: 和白干潟を守る会事務所

総会では前年度の活動報告や会計報告を行い、新年度の活動方針やスケジュール、予算、役割分担などみんなで意見を出し合い決定します。(引き続き2月臨時定例会議を開催します)

山・川・海の新春講演会「立花山の地質について」を開催します！

■日時: 2023年1月21日(土) 10時～11時 ■場所: 香住丘公民館 ■講師: 横山秀司氏

定例スケジュール

●定例会議(1/28, 2/25, 3/25)

毎月第4土曜日12～14時 守る会事務所にて開催。

時間変更などの事前確認をして、ご参加下さい。

和白干潟を守る会事務所…福岡市東区和白1-14-37きりえ館1階

以下は参加自由です。仲間が待っています！

●クリーン作戦と自然観察(1/28, 2/25, 3/25)

毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合

長靴があると便利。駐車場なし。

●和白海岸探鳥会(2/12, 3/12, 4/9)

毎月第2日曜日9時～12時 JR和白駅前和白公園集合 主催: 日本野鳥の会福岡支部

参加費: 一般300円、中学生以下は無料、野鳥の会会員は100円



会員募集中！

年会費 個人 2,000円

団体 5,000円

カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

ボランティアへのお誘い

和白干潟の清掃、鳥の調査のお手伝い(車の運転や記録)、観察会のお手伝い(写真撮影)などです。参加をお待ちしています！

和白干潟の鳥たち(その100)

カンムリカイツブリ(カイツブリ目カイツブリ科 Great Crested Grebe 冠鳩)

[福岡県準絶滅危惧]

[全長56cm]



(写真撮影: 三宅 僚)

カンムリカイツブリは冬鳥として和白干潟を訪れています。雌雄同色で日本のカイツブリ中最大です。冬羽では白くて長い首が目立ちますが、夏羽では橙赤色の頬の飾り羽や黒い冠羽が目立つようになります。夏羽になったらすぐに渡り、美しい姿はあまり見られません。私が初めて調査に参加した1990年頃には沖合のスズガモ達に混じって1000羽以上の群れで生息していました。白い棒がたくさん立っているように見え、感動したことを覚えています。和白干潟沖の人工島工事着工以来減少して、最近では30羽程が飛来していましたが、今冬は少し多く飛来して100羽程が見られます。潜水して魚を採食します。和白海域の魚の豊かさが感じられます。

(山本 廣子)

守る会問い合わせ窓口

ホームページ <http://wajirohigata.sakura.ne.jp>

入会/観察会(申込等)…山之内芳晴

Tel 090-8412-2663

クリーン作戦 田辺スミ子

Tel 090-1346-0460

広報/調査/定例会議…山本 廣子

Tel/Fax 092-606-0012

干潟まつり 松尾 満子

Tel 090-9651-8489

【編集】山之内 芳晴・田辺 スミ子・松田 元・今林 眞由美・松藤 真理奈・山本 廣子

<カット> くすだひろこ

次号は2023年4月発行予定



【編集後記】 まだコロナ禍でしたが、4年ぶりに「和白干潟まつり」が開催できて、大変嬉しかったです。晴れて気持が良く、たくさん子どもたちが和白干潟で遊び、久しぶりに会えた方々もお元気で良かったです。皆と力を合わせて開催できたことが何よりも嬉しかったです！(山本 廣子)